



2024年12月期 第2四半期 決算説明会

2024/08/21

代表取締役社長CEO 川端克宜

アース製薬株式会社

- **2024年12月期 第2四半期業績概要**
- **中期経営計画の進捗／下期の取り組み**
- **通期業績見通し**

社長の川端です。本日は暑い中、また、お盆休み明け直後の忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。8/9に2Q決算については公表しておりますが、本日は、今後の展望や考えていること、それと8月も終わりかけていますので、現状も少しお話しできればと思っています。

また、本説明会の後にMA-T事業説明会を行います。前中計から「MA-T」という言葉を発信はしてきましたが、実際にどういうものであるかということをお伝えできていなかったという反省がございます。MA-Tは当社のポートフォリオを大きく転換する可能性がございます。ですので、この説明会の後に、このMA-Tが当社にどういったことをもたらすのか、或いは、どういったことを考えて取り組んでいるのか、ということをお聞きいただき、少しでもご理解いただくことが大事なのではないかと思います、説明の時間を設けております。

ここまで含めると長時間におよびますが、お付き合いいただけますと有難いなと思います。それでは、説明にはいります。



2024年12月期 第2四半期業績概要

業績ハイライト



(単位：億円)

- 増収増益
- 売上の計画上振れに加え、①原価率及び②販管費の計画下振れにより、利益計画達成
- 販促費使用の進捗遅れ、廃棄関連費用の未消化、販管固定費の期ズレが発生しており、これらは下期に発生する見込み

	23.2Q実績		24.2Q計画		24.2Q実績		比較			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期差	前期比	計画差	計画比
売上高	903.2	100.0%	947.0	100.0%	970.9	100.0%	67.6	107.5%	23.9	102.5%
売上原価	513.4	56.8%	546.4	① 57.7%	556.9	② 57.4%	43.4	108.5%	10.5	101.9%
売上総利益	389.8	43.2%	400.5	42.3%	413.9	42.6%	24.1	106.2%	13.4	103.4%
販管費	290.6	32.2%	321.5	34.0%	306.4	31.6%	15.8	105.4%	▲ 15.1	② 95.3%
営業利益	99.2	11.0%	79.0	8.3%	107.5	11.1%	8.3	108.4%	28.5	136.2%
経常利益	104.2	11.5%	82.0	8.7%	113.3	11.7%	9.1	108.8%	31.3	138.3%
親会社帰属中間純利益	70.4	7.8%	54.5	5.8%	76.4	7.9%	6.0	108.6%	21.9	140.3%

© Earth Corporation All Rights Reserved.

3

2Qの業績ハイライトです。

売上高から各段階利益に至るまで、記載の通りの結果となりました。総じて、2Q段階では、計画を上回る結果で着地しています。固定費の期ズレが発生といったことも書いていますが、後ほど、説明を加えさせていただきます。

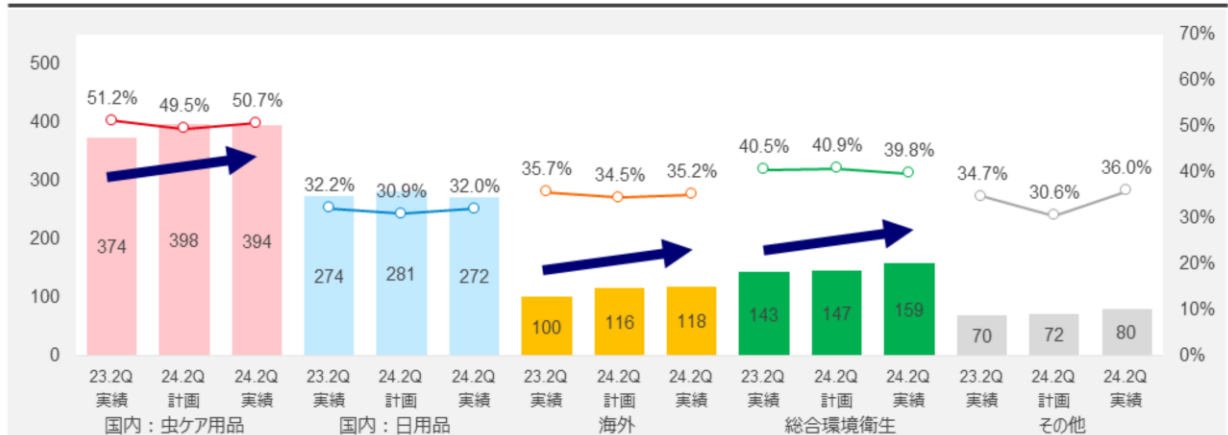
管理会計ベース 売上高・粗利率 (23vs24)



(単位：億円)

- 国内 虫ケア : 売上はほぼ計画どおり、利益率は想定を上回る推移
- 国内 日用品 : 入浴剤、口腔衛生用品が売上計画を下回る
- 海外 : ASEAN、中国とも順調
- 総合環境衛生 : 契約件数・金額の増加に伴い、好調な推移

ポートフォリオ別売上高・粗利率



© Earth Corporation All Rights Reserved.

*当社管理会計ベース、内部相殺取引などの連結調整は含まない

こちらは管理会計ベースでの概観です。

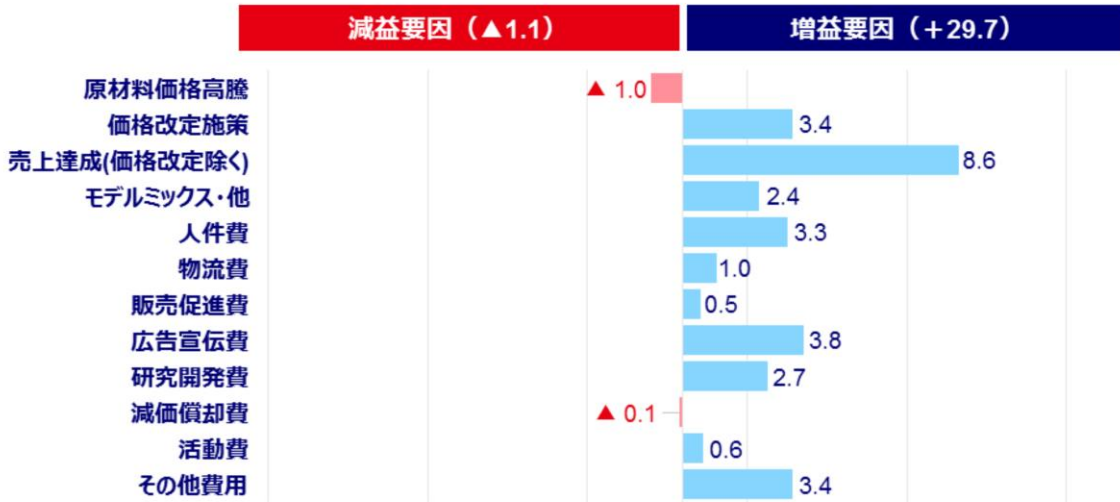
国内の日用品については少し苦戦していますが、国内の虫ケア事業、海外、総合環境衛生事業は、気候の後押しがある部分と気候関係なく業績を伸ばしている部分、ニーズに沿った部分で伸ばしている部分を併せて、概ね順調に推移していると考えています。

営業利益変動要因（計画比）



（単位：億円）

- 2Q時点において、原材料価格高騰の影響は価格改定施策効果により吸収
- 売上計画の達成に伴う粗利益の増加に加え、販管費の期ズレ・計画下振れにより大幅増益



© Earth Corporation All Rights Reserved.

5

こちらは営業利益の変動要因を表したものです。

費用については、概ね計画以内で収まっている状況です。先ほど、販管費の期ズレという話がございました。通期では計画内に収まる見込みと考えています。

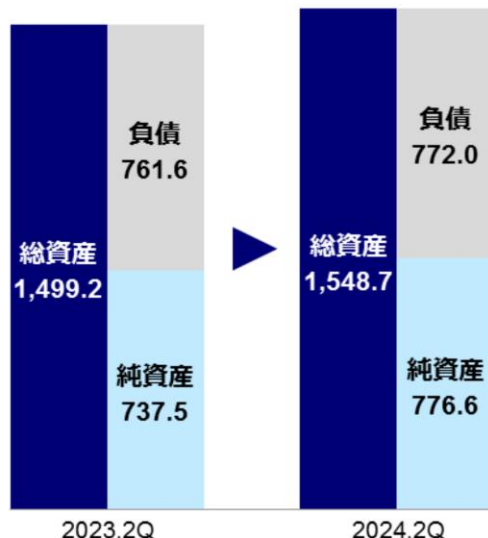
連結：財政状態



(単位：億円)

- ① たな卸資産 (▲43億円) : 前年下期以降の在庫圧縮による効果が発現
- ② 借入金 (▲37億円) : 在庫圧縮に伴うキャッシュ負担軽減に伴う

	2023.2Q	2024.2Q	増減
総資産	1,499.2	1,548.7	+49.4
現金及び預金	187.2	236.0	+48.7
売上債権	381.1	394.0	+12.8
たな卸資産	336.4	293.4	▲43.0 ①
有形固定資産	311.4	314.5	+3.0
無形固定資産	80.5	87.7	+7.1
投資その他の資産	176.0	195.1	+19.0
負債	761.6	772.0	+10.3
仕入債務	383.0	413.4	+30.3
借入金	107.2	70.0	▲37.2 ②
純資産	737.5	776.6	+39.0
自己資本比率	45.7%	46.6%	+0.9pt



© Earth Corporation All Rights Reserved.

6

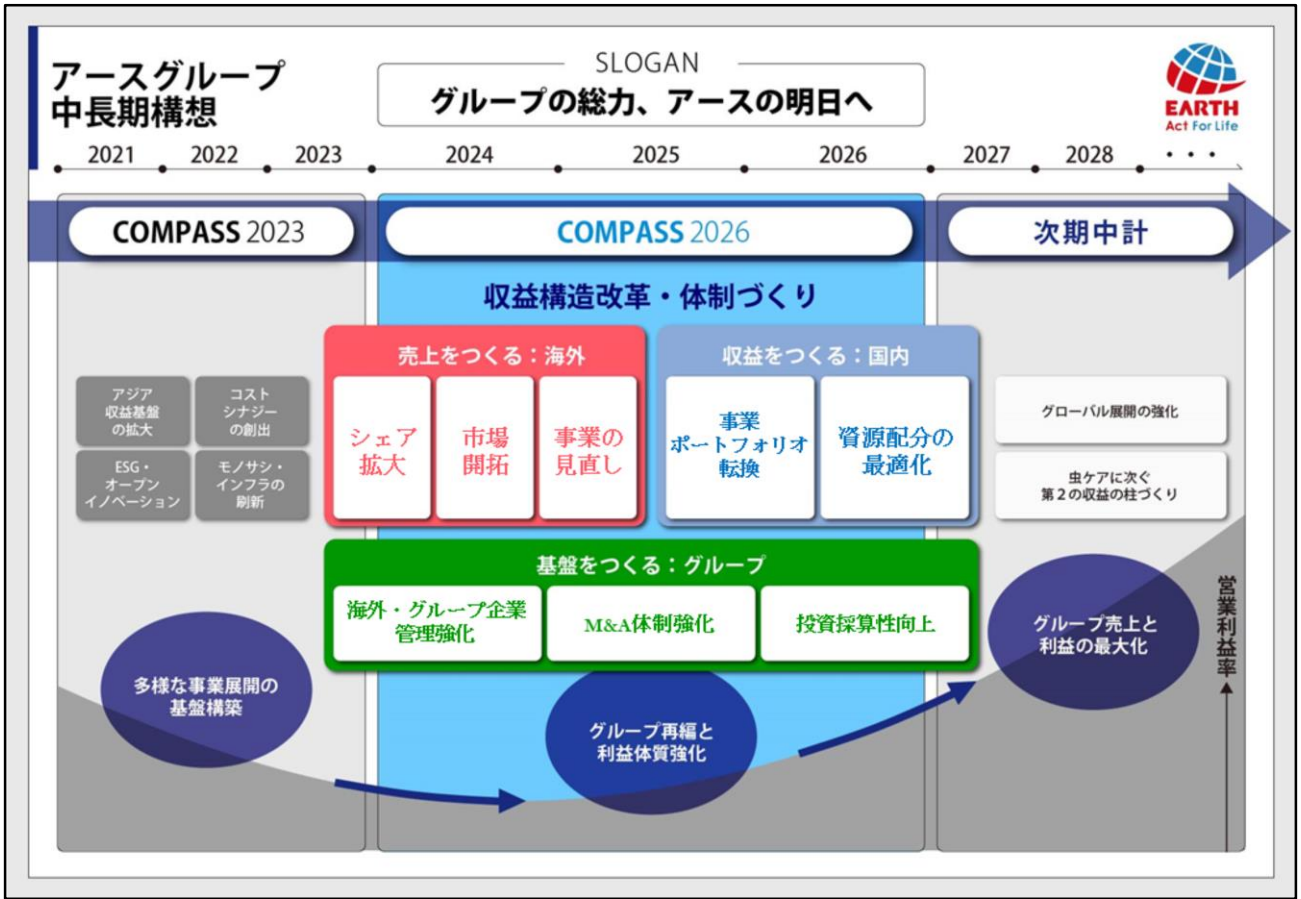
こちらはB/Sの状況です。

コロナ禍では若干の欠品を起こした経験があり、在庫を膨らませてきました。しかし、経営の効率化を考えた時にスリムな体質を目指すべきということになり、グローバルSCM本部を中心に在庫コントロールを進めています。いわゆるモノサシの刷新の成果が確実に出始めている状況です。また在庫圧縮によって、運転資本が改善し、借入金の負担が減少しています。キャッシュ効率を改善させることで、今後行わなければならない様々な取り組みに対して、キャッシュに少し余裕を持ちながら、来るべき時に備えることができる体制になってきていると考えています。



中期経営計画の進捗／下期の取り組み

続いて、現在推進している中期経営計画、特に構造改革について進捗を説明いたします。

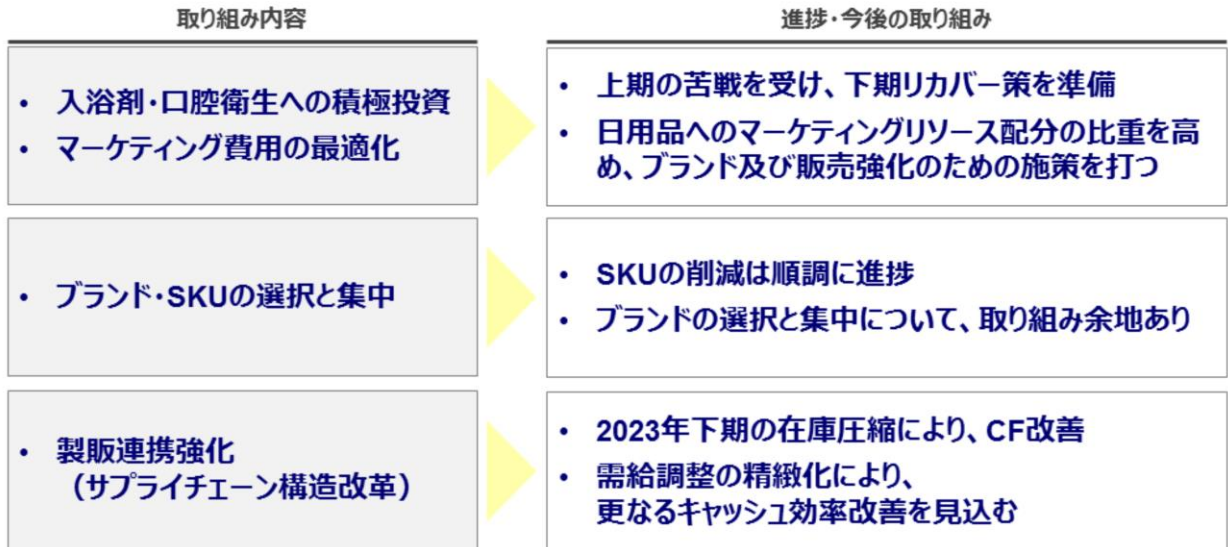


こちらは、中期経営計画のおさらいです。

今期は本中計の初年度にあたります。発表時から申し上げている、SKUの削減や選択と集中といった部分はしっかりと進めています。また、グループ全体を見た時に、これまでは各社の色を重んじて、グループ運営を行ってきました。しかし、昨今の原材料高影響といった外部環境の変化を踏まえて、グループ運営のやり方をこの3年間で見直すとお約束させていただきました。これについては今、着実に進んでいる状況です。

収益構造改革の進捗

- 収益構造改革に向けた取り組みは着々と進む
- 一部、成果が発現しているものもあるが、多くは来期以降の発現を想定



© Earth Corporation All Rights Reserved.

9

収益構造改革の進捗についてです。

入浴剤、洗口液は積極投資を進めています。入浴剤はアース製薬、バスクリン、白元アースのアースグループでは市場シェアNo1をいただいています。各社が緩やかに連携し、シナジーを生み出していた部分もありますが、少しバラバラに動いている部分や重複している部分がありますので、これを見直していこうと考えています。

口腔衛生は「モンダミン」が発売以来30年を超えるブランドになっています。ターゲットとする年齢層を見直しが必要になっており、施策の見直しを進めています。

ブランド・SKUの選択と集中は2月に申し上げた通り、30%の削減を進めています。

サプライチェーン構造改革については、在庫の圧縮を行うことでキャッシュの改善が進んでいます。ただ季節性が大きい商材でもあるため圧縮ばかり行くと欠品リスクも発生します。この相反することを成り立たせる仕組みが完成し、より強化していこうと考えています。

2Q時点で虫ケア用品は天候の後押しも受けながら、非常に好調に推移しており、足元でも想定以上の推移をしています。ですので、下期は日用品カテゴリーに対して、若干のマーケティング費用を追加しようと考えています。SKUの削減については、廃棄をするにしても、廉価販売をするにしても費用が発生します。費用がかかるけれども、SKUの削減はしっかりと行っていきます。

虫ケアのSKU削減は進めているものの、天候の後押しもあり、店頭での消化が進んでおり、費用を使わずに在庫削減ができています。現状、構造改革は2割から3割くらいの進捗率ですが、来期にかけてはグループ再編もふまえて、更に踏み込んだ削減をしていく予定です。

『攻め』と『守り』の構造改革 ～今後の取り組み～



- 『攻め』= 将来成長と『守り』= 事業効率の向上を両立させる構造改革を推進
- グループ再編に向けた協議は想定どおり進捗、詳細は3Qの説明会にて公表予定

『攻め』の構造改革

- 更なる収益拡大に向けた全面的な価格政策見直し（価値に見合った価格）
- 返品・廃棄削減に向けた虫ケア・日用品の需給・販売政策見直し
- 国内、海外、総合環境衛生、MA-Tの4本柱で事業ポートフォリオ再編
- 積極的な財務戦略とM&A展開

『守り』の構造改革

- 再編プロジェクトチームの発足
→ 再編に向けた協議を実施中
- 採算性の低い資産・ブランドの整理
- グローバルガバナンスの強化
 - ・ グローバル生産戦略部発足
 - ・ 海外管理体制の強化
- M&A推進・投資採算管理体制の強化
- 在庫削減によるキャッシュフローの改善

構造改革の取り組みを「攻め」と「守り」の観点でご説明いたします。

当社はこの2年間で約60億円の原材料高騰の影響を受けました。コストダウンや価格改定を進めてきましたが、完全にはカバーできていません。残り12～14億円程度をカバーする必要があり、来期進めていきます。原材料高をカバーするための価格改定はすぐにできるわけではありません。お客様を巻き込みながら、計画をもって進めており、必ず実行いたし、順調に進んでいる状況です。

返品と廃棄削減、SKU削減は関連している部分があります。SCM部門と連携し、タイムリーな仕入と生産ができる体制を整えつつ、取り組みを進めていきます。

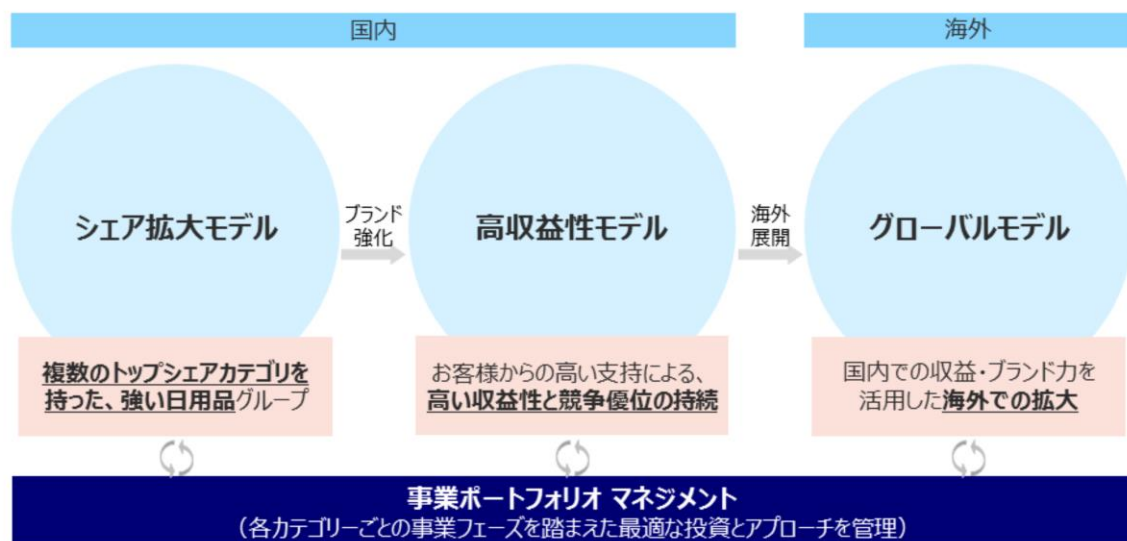
海外は改革の一丁目一番地に据え、取り組んでいます。各国とも総じて順調に推移し、想定以上の進捗で成長しています。総合環境衛生事業は、コロナが明けてクライアントからの発注が増えている状況です。MA-Tはようやく取り組みの成果が見えてきた段階になります。将来的には4本柱の一つになると期待しています。

更なる事業展開においてM&Aも見据えており、チャレンジできる財務体質に変化してきています。

また本中計の目玉はグループ再編になり、3年間で目途をつけると説明しています。本日の時点では詳細の説明ができないため、3Qでご説明いたします。理由は、やはり人が関係する取り組みでもあるため、慎重に進めたいと考えているためです。決して、手を打っていないわけではありません。これに関連するブランドの整理を含め、プロジェクトチームを既に立ち上げ進めている状況ですので、本日時点ではご理解いただければと思います。

構造改革により目指す姿

- より強いアースグループの実現に向けて
シェア拡大を行った上で、ブランド強化による収益性向上を図り、海外展開で成長を加速



シェアの高いカテゴリは収益が出て当たり前ですし、できるような企業体質にしています。ですのでシェアを拡大させないといけません。そこから得た利益をグローバルに投下していくことを表現したものです。

目指す事業ポートフォリオ

- 現状は、国内虫ケア用品への収益依存度が高い
- 将来的に、国内、海外、総合環境衛生、MA-T関連を4つの柱で収益を拡大する



© Earth Corporation All Rights Reserved.

12

こちらは、将来的に目指す事業ポートフォリオです。

国内事業については、虫ケアのようにシェアNo1を獲得できるカテゴリをどうやって育てていくか、また成長チャレンジカテゴリの園芸やペット用品をどのように進めていくか、ということも考えつつ、再編の中で国内事業について考えているところです。

海外においてはグローバルで見た時のシェアはNo1はSCジョンソン、No2はレキットベンキーザー、No3に当社が位置します。近い将来、No2を目指すという大きな目標を掲げ、現地法人をあわせ、24か国にフォーカスしたビジネスでより加速していきたいと思っています。

総合環境衛生事業は今、売上高が300億円を超える規模にまで成長してきました。国内にとどまらず、海外にも拡大させ、将来的には当社の大きな利益の柱に育てていこうと考えています。そして、MA-Tも同じく、当社の大きな利益の柱として育成していきます。

下期の取り組み | 虫ケア用品の新製品上市



- 被害が拡大しているスーパーコジラミへの対策商品を緊急発売
- 秋冬の虫ケア用品需要の高まりを受けて、虫ケア用品の新製品を秋季に発売、業績の季節性の緩和に向けて、虫ケア用品の年間商材化、通年での売場確保を促進する

- 「1年に1度」の徹底ケア（アース史上効果最長）
- 従来の薬剤が効きにくい抵抗性ゴキブリやスーパーコジラミにも効く！
- 空間・すき間にプッシュするだけ！

防除用医薬部外品

© Earth Corporation All Rights Reserved.

13

続いて下期の取り組みです。

虫ケア用品は上期の売上構成が高くなりますが、温暖化の影響もあり、これまではオフシーズンと言われていた下期にも売れています。ここ数年、虫ケアトータルでの下期の売上が2桁以上アップしています。寒い時期であっても室内は暖房や加湿器で快適な空間になり、冬場でも虫、特にダニは発生します。それから、ハエや蚊は暑すぎて活動が弱くなっています。気温が落ち着いてきて、ここ最近になって蚊に刺され出す人がいます。虫が活動する時期がこれまでと比べて、少しずつ下期にズレてきています。こういう状況を踏まえて、下期にゴキブリ用、トコジラミ用の「ゼロナイト」を発売いたします。この製品は当社でしか扱えないものであり、当社の優位性が出せる製品です。先日発売しましたが、販売店様には非常に好調に採用いただいています。

下期の取り組み | 日用品のリカバー策

- 当初計画外の新製品・企画品ローンチにより、売上・利益の底上げを図る
- コミュニケーション施策の新規実施など含め、マーケティング費用の投入配分を高める



© Earth Corporation All Rights Reserved.

14

こちらは日用品のリカバー策です。

下期の主力カテゴリは日用品になります。「温泡」の新しい製品の発売、「モンダミン」のリブランドを進めていきます。大々的なリブランドは来期以降になろうかと思いますが、派正品として「Damon」を発売します。これは全く新しい洗口液へのチャレンジになります。

こうした下期の製品計画は年間計画には含めていません。ですので、これらの製品によって、6~7億円くらいの売上を見込んでいます。想定以上に売れば、プラスアルファになります。

下期の取り組み | 追加の価格改定施策



- 収益性改善に向けて、消臭芳香剤『スッキーリ!』ブランドの価格改定（計53SKU）を実施
- CMの投入による製品価値の訴求など、販売のバックアップにより価格改定をスムーズに実現させる

対象SKU（一例）



スッキーリ! トイレ用



スッキーリ! お部屋用



トイレのスッキーリエア!

© Earth Corporation All Rights Reserved.

15

また下期は、並行して消臭芳香剤の価格改定も実施する予定で進めています。



通期業績見通し

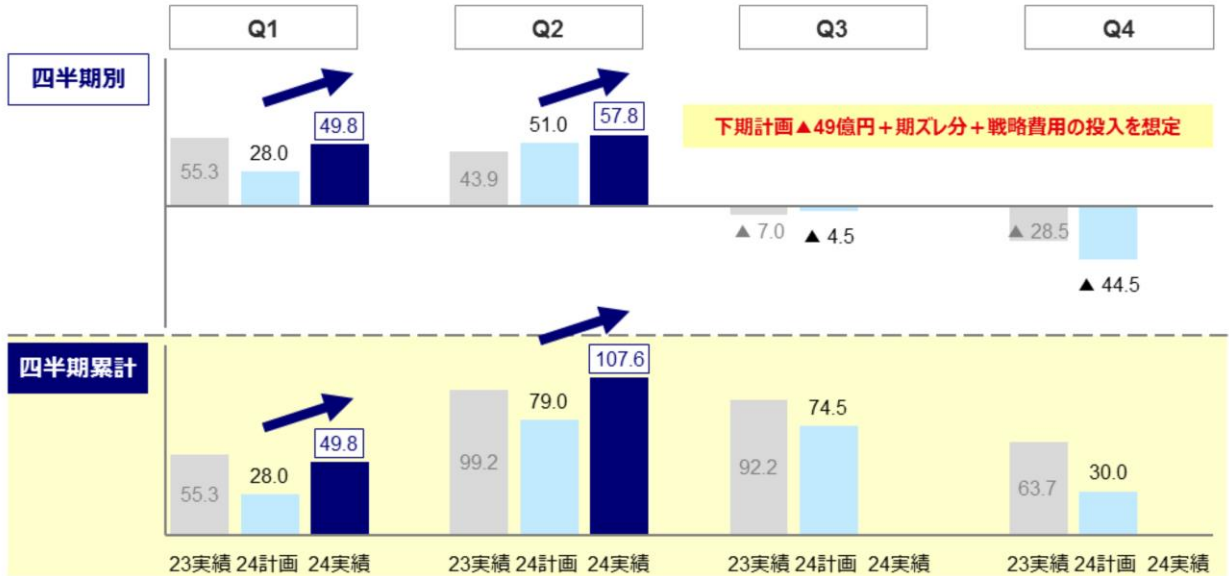
最後に、通期業績の見通しについて簡単に触れたいと思います。

営業利益の進捗（四半期別・累計）



(単位：億円)

- 下期も上振れに期待するものの、①天候リスク、②予算原価に対する上振れ、③上期未使用分経費の使用に加え、④販促・広告の戦略的投入を考慮



© Earth Corporation All Rights Reserved.

17

2Qが締まった段階で修正開示について議論は行いました。しかし、来期以降も続く構造改革への費用配分やその他のリスクを考慮し、この段階では修正開示は行わないことといたしました。

3Q時点では、グループ再編の説明と併せて、通期の見通しについては何らかの説明をさせていただく予定です。

2024年 業績見通し



(単位：億円)

- 期末業績の上振れを期待しつつ、現時点では2024年2月13日公表の数値から変更しない
- 業績見立てについてはリスクシナリオを含めて検討中であり、なるべく蓋然性を高めて開示する

	2024計画	ポイント	2023実績
売上高	1,650	・ 管理会計上の5区分すべてで増収を計画 ・ 国内虫ケア用品では、今期も価格改定を実施	1,583
売上総利益	658.3	・ 原材料価格高騰による原価影響額：11億円を想定 ・ 国内虫ケア用品、日用品の収益性に影響	636.2
販管費	628.3	・ 構造改革関連費用として15億円を今期分として計上見込み ・ 人財投資に+16億円、ブランド育成投資に+11億円を見込む	572.5
営業利益	30.0	・ 構造改革の推進に伴い、一時的な減益となる	63.7
親会社株主帰属 当期純利益	17.9	・ 営業外収支は前年並みを想定 ・ 特別利益／損失に大きなものは想定していない	41.0
ROE	2.7%	・ 収益性の一時的な低下によるもの	6.3%

© Earth Corporation All Rights Reserved.

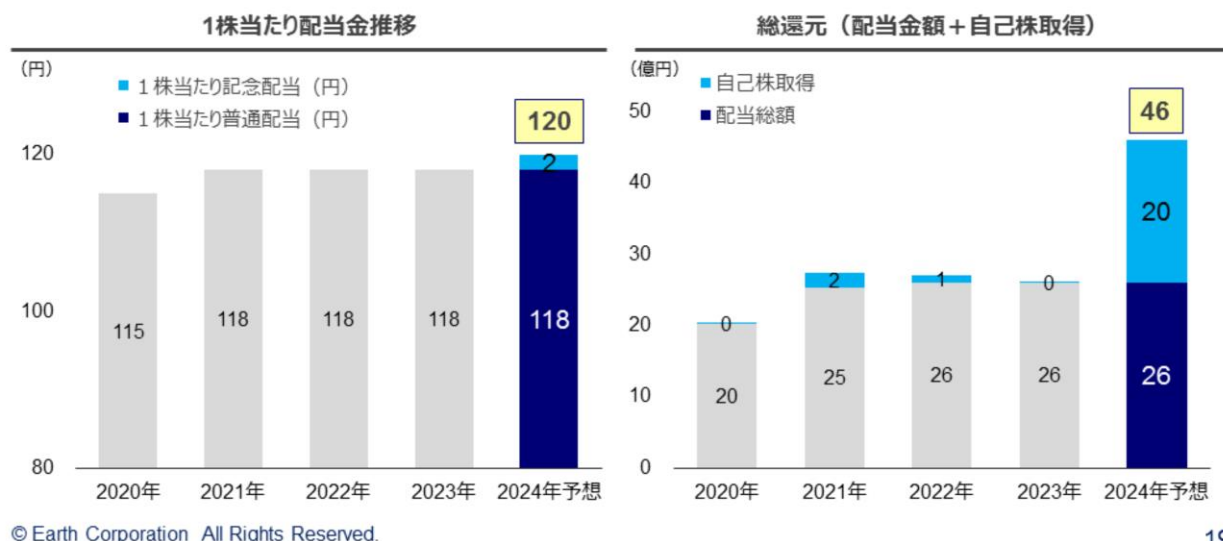
18

繰り返しにはなりますが、一旦このタイミングでの業績予想の修正は見送らせていただきました。

株主還元



- 還元方針：DOE4%を目安に安定配当を実施、増配・自己株取得については機動的に検討
- 2024年の1株当たり配当金は、2円の記念配当を実施することで120円を予定
- 自己株式の取得完了（20億円、41.7万株、発行済株式総数に占める割合：1.9%）



19

こちらは株主還元についてです。

株主還元は重要政策の一つとして捉えています。

来期の100周年に向け、まずは2円の増配を発表させていただき、また、約20億円の自己株買いを行いました。

地球を、キモチいい家に。



本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

2Q時点ではご説明できる部分とできない部分がありますが、可能な範囲で詳しくお伝えできればと思います、説明させていただきました。

ご清聴いただき、ありがとうございました。